

クイズ浄土真宗



親鸞聖人750回大遠忌法要記念出版

田舎のおばあちゃんが、
伝えたかったことが、
三択クイズで明らかに...

末本弘然

探究社 定価1365円(本体1300円+税)

クイズ浄土真宗 〈はじめに〉

本書は、三択クイズ形式で、浄土真宗という仏教を紹介するものです。巻頭の1題と、教義編、仏事編、歴史・雑学編の99題、計100題が掲載されています。

仏教を紹介するのに、なぜクイズなのか？——それは、生活から縁遠くなってしまった感のある仏教を、もう一度、私たちの元に呼び戻したいからです。そのためには、広範な仏教の中から焦点を絞りこみ、大切な部分を明らかにする必要があります。しかも、一方的に講釈を垂れるのではなく、読者自身も参加して、より身近に仏教を感じてもらいたいというのが、三択クイズを採用した理由です。

では、なぜ浄土真宗なのか、です。それは、世の中の情勢に関わってきました。

今、人類社会は混迷の度を深めています。これまで私たちは、幸せを求めて進歩、努力、発展を合言葉にまい進してきました。それは裏返せば、人間中心、能力中心、現世中心の生き方でもあったのです。しかし人間は進歩発展するばかりではありません。衰え（老い）や消滅（死）は必ず訪れます。また、人間中心の考え方は他のいのちを傷つけ、地球そのものをも汚染しはじめました。また、人間のランク付けと極端な貧富の差は、勝者に

なること、善人であること、地位や肩書がある者のみが生きる権利があるかのような社会を作り上げてしまいました。要は、人間の力と可能性を前提に構築された世の中だったのです。その人間至上主義、人間万能主義にほころびが生じてきているということでしょう。

「人間が…」 「自分が…」 という自己中心的な発想から、「人間に」「自分に」かけられた多くのいのちの願いとはたらきと、その恩恵を見てゆく発想へ…。 「自力から他力へ」の逆転発想が今こそ必要なのだと思います。現に、私たちは大地によって支えられ、あらゆるいのちのつながりの中で生かされています。そのいのちはまた、生死を超えてはるかにつながっているのです。実は、この近現代社会が見失っていたいのちの連携とおかげさまの心を、如実に説いているのが浄土真宗という仏教なのです。

もともと、昔は、多くの日本人がそう思っただけで暮らしていたと言えるでしょう。今もそう思っただけで暮らしている田舎の人びとも大勢おられることでしょう。そうした田舎のおばあちゃんや私たちに伝えておきたいことが、本書の中身です。その意味で、都会の人びとと故郷のおじいちゃんおばあちゃんとの橋渡しになれば、こんな有り難いことはありません。

近代思想が日本人の精神世界に特異な形で浸透し、その中から形成されてきた宗教への偏見と固定観念をひとまず脇に置いて、この100の問いに向き合ったとき、自ずと見え始めるものがあるはずです。それは時と所を超えて輝くものにほかなりません。それこそ

が田舎のおじいちゃんおばあちゃんの伝えたかったことであり、著者の願いでもあるので
す。

本書を発刊するに当たり、構想を練ってくださった木越由美子さん、カット絵ほかで協
力くださったマムチョの尾野寺将人さん、いろいろとアドバイスくださった西山茂樹さん、
そして出版の労をとってくださった探究社の花岡大詩社長に、心から御礼申し上げます。

なお、本文の問い「Q」の下線中央に描かれた蓮のかたちは、花卉の多少で3種類、あ
ります。これは問いの質の目安にしていたたくもので、少ない方から順に「基本 (Basis)」「
応用 (Application)」「発展 (Development)」を表します。また、解答「A」の下にあ
る「検索キーワード」は、さらに詳しく知りたい人のために、Webで検索するときの参
考の言葉として上げたものです。活用いただければ幸甚です。

平成22年10月27日

末本弘然

Q 1. 浄土真宗の本尊ほんぞんは次のどの方？

イ. 釈迦牟尼しゃかむにぶつ仏

ロ. 阿彌陀あみだぶつ仏

ハ. 観音菩薩かんのんぼさつ





一般に、本尊とはもっとも大切にしている信仰の対象であり、生涯を通して心の依りどころとなってくださる方のことです。仏教では、究極的には、真理そのものが本尊なのでしようが、私たちは具体的なかたちやはたらきを通して真理に触れるわけですから、多くの場合、真理に導いてくださる仏、菩薩が本尊になります。釈迦牟尼仏、薬師仏、観音菩薩などで、密教系の不動明王、日蓮系の題目、真理を絵画化した曼荼羅も本尊として崇められています。

浄土真宗は、すべての人びとをもらさず救おうと大悲のはたらきをかけてくださる阿弥陀仏に、自らをひたすらゆだねていく教えですから、本尊は阿弥陀仏一仏であり、阿弥陀仏の本願のはたらきが詰まった「南無阿弥陀仏」の名号も本尊として仰いでいます。

(イ)の釈迦牟尼仏(お釈迦さま)は、浄土真宗では「阿弥陀仏の救い」を説いて、私たちに勧めてくださる方と見ます。また、(ハ)の観音菩薩は、阿弥陀仏の元で修行されている身(脇侍)で、阿弥陀仏をお手本にされている方です。釈迦牟尼仏、観音菩薩はともに私たちに、阿弥陀仏を本尊と仰ぐように願っておられる方がたと言えるでしょう。

A1.ロ

【検索キーワード】本尊

Q 2. 阿弥陀仏の救いで、どこへ行く？

イ. 天国

ロ. 冥土^{めいど}

ハ. 極楽浄土^{ごくらくじょうど}





(イ)の天国は、キリスト教徒が敬虔な信仰により生まれることができる世界のことです。仏教でも天界というのはありますが、これは次に触れるように、仏や菩薩が救いとるべき理想の世界ではありません。また(ロ)の冥土は冥界とも言い、亡き人が初めに赴くところと言われています。「冥」という字には「くらい」「まよう」という意味があり、冥土と言え、やはり暗く心細い世界と言えるでしょう。三途の川や賽河原があるそうで、ここで閻魔大王らの裁きを受け、次の世の行き先が決まります。それが地獄、餓鬼、畜生の三途(三悪道)なのか、善業(善い行い)が評価されて天界に生まれるのか、いずれにしても、六道(コラム①参照)と言われる迷いの世界に生まれることに変わりはありません。

(ハ)の極楽浄土というのが、阿弥陀仏の救いで生まれることができる世界です。ここは、暗闇ではなく、無量の光明に満ちたところであり、すべてのいのちが一つに解け合い、敬い合う清浄な仏の世界です。苦悩が消えて楽のみになることから極楽と呼ばれます。浄土の中でも最上の浄土と言われるゆえんです。

A 2. ハ

【検索キーワード】浄土往生

Q3. 浄土真宗の門徒が称えるのは？

イ. 南無阿弥陀仏

ロ. 南無妙法蓮華経

ハ. 南無大師遍照金剛

